

山内自治会だより

やままち

第89号

山内自治会発行

平成31年3月1日

☎933-4792

平成三十年度の「やまむむ食堂」終了

沖縄市の補助を得て七月の夏休み期間から先月まで合計9回(毎月一回土曜日)開催してきた「やまむむ食堂」(子どもの居場所づくり事業)も、無事終了しました。また、三十一年度も実施することを考えております。さて、「やまむむ食堂」に参加してくれた地域の子供たちは、延べ三四三名。また、料理を作ってくれたり、子供たちの相手をしてくれたスタッフ(自治会評議員や食生活改善推進委員、学校ボランティアなど)が延べ一三名。参加した子供達、スタッフの皆さん、大変ありがとうございました。スタッフがの皆さんとやまむむ食堂の様子



スタッフがの皆さんとやまむむ食堂の様子

第二七回2019おきなわマラソン

「きつと出会える 人・夢・愛」のキャッチフレーズで開催されたおきなわマラソンでアスリートが中部路を疾走した。山内自治会はコープおきなわ山内店向かい(沖縄銀行前)で、太鼓などの鳴り物や手拍子でアスリート達にたくさんのお声援を送りました。応援に駆けつけてくれました。応援に駆けつけてくれた多くの自治会の皆さんがいました。



応援風景

応援団に応える普久原朝泰さん(評議員・4丁目)

新春お茶会の開催

去った、一月三十日(水)表千家の比嘉米子さん(やまむむ所長)が、日ごろから山内地域の皆さんにお世話になったという事で公民館でお茶会を開催した。当日は、米子さんのお姉さん方もスタッフとして参加していただき、おいしいお茶をいただいた。



今年も公民館敷地やお宮の桜が満開でした。



生きテイ視察研修

先月の二月十四日(木)、公民館で毎月第二・四木曜日に開催している「生きがいデイサービス」に参加している皆さんで、琉球新報新聞博物館等を視察した。



「やままち」あれこれ⑩

ヤマムムの話③

今年も三月下旬から四月にかけてヤマムムの季節が来ます。山内の公民館をはじめ、各家(チネー)でも赤く熟したヤマムムがみられることでしょう。ヤマムム(楊梅ともいう)は、昔から主に女性が中心になって収穫していった。その収穫したものをどのようにして販売していたのか、戦前の新聞記事から紹介していきたいと思っております。

明治45年4月8日の琉球新報の記事によりま

「採集したる楊梅は大山・真志喜の仲買人に大山一升十五銭にて売却するを普通となす。抑々(そもそ)も大山一升とは二升の意味にして、一升は採集の必要する費用として支払の規定なりと聞く。二販路は主として那覇市場にして五里を隔つ。」山内の古老の話でも昔から大山・真志喜の仲買人には専属がいて親せきづきあいの中だったとのことである。

※仲買人：ウヤマーともいう。また、ムムウイアングワーの名は有名。



さらに、お年寄りの話では、自分たちでもヤマムムが入ったパーキ(竹かき)を頭に掛けて、歩いて当時街として賑わった泡瀬や嘉手納に運び売って、その代わり日に日用雑貨等を買ってきたという。

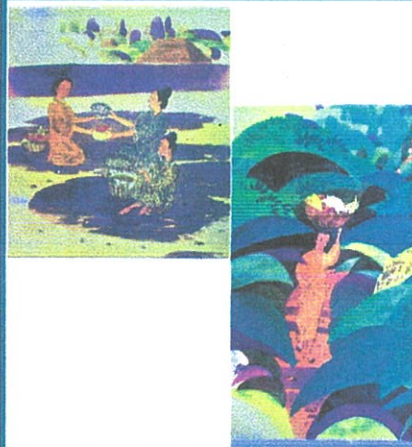
また、同年の琉球新報にヤマムムは、食するだけではなく、他の用途についての記事も掲載されている。

「楊梅は楊梅酒を醸造し用ひらるるが如しと雖も、県下に於いては生食用の外に塩漬としては常用するもの多し、楊梅の塩漬をなすには、塩四分の一に楊梅四分の三の割合に混合すれば可なり。」さらに、ヤマムムの効用についての老農の談も掲載されている。

「人若し胸部に引きつけるが如き痛み(俗称チーハイ)あるときは、楊梅果の汁を搾り取り酒と半々に混じり飲用するときは痛み幾分か減すと云ふ。熱病の際之が塩漬を食すれば食欲大い増進すといふ。これ素より一老農の談なりと雖も、本草綱目により其一端を窺はんか。」

※「本草綱目(ほんぞうこうもく)」：一五七八年に完成した中国の薬学著作本

●新聞記事の引用は「沖縄市史第八巻 近代期の新聞にみる歴史」下より。



老友会だより

沖縄市かりゆしシニアクラブ主催、第二十二回ボウリング大会が去った二月八日(金)にあった。山内老友会は男女とも一位、二位を独占した。



見事優勝!

公園愛護団体視察研修

山内第二公園・桃山公園の清掃奉仕作業を毎月2回行っている老友会のメンバー(公園愛護会)で、和気あいあいと首里城などの視察研修を行った。



37運動の開催

日時: 3月3日(日)午前10時~
場所: 公民館
①「高血圧について」
中田安彦先生(愛聖クリニック院長)
②ヘルシークッキング
食生活改善推進委員
※詳しくは2月号の自治会だよりを見てください。

自治会に加入しませんか。自治会に加入して、安心して安全な住みよい地域を共に築いていきましょう。